

皆様こんにちは。立教大学舞踏研究会 2013 年度卒業の勝部晃と申します。

私のことを知らないという方がほとんどだと思いますので、自己紹介から始めたいと思います。私が舞踏研究会に入部したきっかけは、2011 年度卒の宮内隼輔先輩(現在は財団プロラテン A 級)に勧誘され、新入生歓迎デモンストレーションで先輩方のパフォーマンスに魅せられたことです(焼肉を食べながら綺麗な先輩方から厚くもてなされたことも理由の一つです)。私は高校時代に中国舞踊という踊りをしてきた経験から、ダンスに対して抵抗がなく、正式に入部する前から夏の全日本戦のラテン部門で優勝すること目標にするほど、モチベーションが高かったと記憶しています。結局、大学4年生の時に全日本戦で優勝することはできませんでしたが、春の東部戦で2種目優勝(Chachacha 部門、Samba 部門)、夏の全日本戦では総合3位となることができました。大学卒業後は JBDF(財団)でプロに転向しました。スタジオは大学時代から元統一全日本チャンピオンである金光進陪先生に師事していたこともあり、渋谷にあるクワバラダンススクールに入社しました。デビュー後は各クラス戦で優勝することができ、デビューから一年半で A 級昇級をすることができました(公式な記録はわかりませんがノービスからデビューした中では史上最短とのことです)。しかし、社交ダンス界の行く末に漠然とした不安を感じ、引退を決意。現在は埼玉県にある川口市役所で公務員として勤務しています。公務員になってからはアマチュアに再び転向し、競技会に出場、転向後一年で全日本戦アマチュアラテン部門のファイナリストになることができました。自己紹介が長くなりましたが、このような経験を持つ私がプロとアマチュアの競技選手を経験して感じた違いについて書かせていただきます。

私が感じたプロとアマチュアでの決定的な違いは、ダンスに向き合える環境です。具体的には二つあり、ダンスに掛けられる時間と周りでダンスを練習している選手のレベルです。

ダンスに掛けられる時間の違いについてはプロの時は一日中ダンスをしているようなものなので、一つのステップに対してトライ&エラーで色々考察し、より自分たちがよく見える表現方法を模索するので、一曲を通して二人のタイミングやステップの解釈にバリエーションがありました。アマチュアになってからは仕事が終わったあとに練習を始め、時間も限られているので色々試すというよりも体力づくりと各種目の気になった振り付けを練習することで精一杯でした。プロとアマチュア時代でパフォーマンスとしてはそんなに変わりなかったかもしれませんが、ステップに対して、プロの時よりも明確な考えがなく抽象的に踊っている瞬間が多かったのが納得のいくパフォーマンスが難しかったです。

周りの選手レベルについては、当たり前ですがプロとアマチュアでは選手のレベルは圧倒的に違いました。プロの時は生活を賭けて勝負している選手と日々練習を共にしていました。練習時間中は刺激的で周りに置いて行かれないようダンスに没入せざるを得なかった環境でした。アマチュアになってからは普段十条富士学院で練習していたのですが、周りで踊っているのは基本的に学生がメインになります。学生ダンサーは今後が楽しみで見ている面白いのですが、学生の人たちの中で踊っていると無意識のうちに気が緩んでしまい良い意味での焦りがあまり無かったと感じました。

大きな違いはこんなところですが、プロが良かったのかアマチュアが良かったのか聞かれるとどちらも一長一短なところがあり甲乙つけ難いと感じています。自分はアマチュア向きだと感じているので、今後も健康のためにダンス生活を楽しんでいきたいと思えます。

最後まで読んでいただきありがとうございます。大変な時期ですので皆様ご自愛ください。